

高岡の図書館

第104号

2018. 9. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

「知の拠点・情報の拠点」を支えるもの

富山県立図書館長 福澤 幸人

読みたい本が地元の図書館になかったら、どうしますか。そのような時でも図書館から本を借りることを諦める必要はありません。富山県内では、富山県立図書館と35市町村立図書館、3大学・短期大学図書館、サンフォルテ図書室が「図書館間の相互協力に関する協定」を締結し、

- (1) 図書館資料の相互貸借に関する事項
- (2) 図書館資料の文献複写に関する事項
- (3) レファレンスに関する事項
- (4) その他図書館サービスに関する事項

について利用者のニーズに応えられるよう、図書館が相互に連携・協力しているからです。そして、上記(1)の相互貸借によって、他の図書館から取り寄せた資料（本）を地元の図書館において無料で受け取ることができます。

また、県内図書館が所蔵していない場合は、東海・北陸（愛知県・三重県・岐阜県・石川県・福井県）管内の図書館から取り寄せることも可能です。それでも読みたい本がない場合は、送料の一部を負担いただくとともに、取り寄せた図書館内のみでの閲覧となりますが、国立国会図書館の蔵書を調べてみることをお勧めします。国立国会図書館には、納本制度によって、日本国内で出版されたすべての出版物が収集・保存されているからです。

県内であれば、各図書館ホームページの横断検索システムを用いて、自宅でも所蔵の有無を簡単に検索することが可能です。昨年度、高岡市立図書館（5館）は県内図書館より、最多の3,069冊（約21パーセント）を借り受け、高岡市民の皆さまの利用に供しています。一方、595冊（約8パーセント）を貸し出し、他館利用者の皆さまから喜

ばれています。県内図書館相互の総貸出・借受は、ともに微増ですが、県外図書館への貸出冊数は前年度比約13パーセント、借受冊数は約24パーセント増えており、広域での連携が一層強化されていることを知ることができます。

図書館資料の文献複写やレファレンス等に関して、ここでは詳述しませんが、自館での対応が困難な場合、図書館相互の連携・協力によって解決しているということに変わりありません。

加えて、各自治体の財政状況が厳しい中、図書館は限られた予算の範囲内で資料（本）の収集・保存に努めなければなりません。予算や収集・保存方針等によって、市町村立図書館が利用者からの購入リクエストに応えられない場合、「図書館のための図書館」の運営方針に従って、富山県立図書館では市町村立図書館からの購入リクエストにも応えるよう努めています。逆に市町村立図書館で除籍された一般図書を富山県立図書館で受け入れ、「保存のための図書館」を支えていただいています。

このように、各図書館では相互貸借や購入リクエスト等にも対応しながら、効率よく収集・整理・保存に努めているところですが、昨年、残念なことに県内6館で学校史や学校記念誌が破り取られたり、切り取られたりするという事案が発生しました。また、多くの未返却本の対応に苦慮していることも事実です。

「知の拠点・情報の拠点」としての図書館は、図書館相互の連携・協力ばかりでなく、利用者との信頼関係で成り立っているということをいま一度ご理解いただき、今後とも図書館運営にご協力をお願いする次第です。

勝興寺伽藍

—本坊の一部公開について—

公益財団法人 勝興寺文化財保存・活用事業団専務理事 高田 克宏

平成10年（1998）に本堂から始まった勝興寺の12棟の重要文化財の保存修理事業は、2021年3月の完工に向けラストスパートとも言うべき段階になっている。現在は、経堂、鼓堂の組立、本堂と本坊を結ぶ廊下そして防災設備や境内地の環境整備の各工事を進めており、未着手は総門だけとなった。

勝興寺では、修理がほぼ完了した「本坊」の一部公開をこの8月から始めた。本坊とは寺院の住宅系建造物群のことで、勝興寺の場合は大広間及び式台、台所、書院及び奥書院、御内仏で構成され、境内地の北側に位置している。勝興寺本坊は、近世大寺院の住宅系建造物群の主要な部分のほぼ全体が遺存されており、その配置は近世大書院造の典型的な「雁行式」を示すものとして、非常に価値が高いと評価されている。

本坊の特徴や見どころについて、その部位ごとに述べる。まず、本坊の入口とも言うべき「式台」である。式台とは、本来は正式な玄関の入口にある低い板敷を指し、転じて玄関全体をいうこともあるが、勝興寺の式台の場合は単に玄関だけでなく、正式な客を迎え入れる部屋を含む。正確な建立年代は不明だが、現本堂の前身の本堂を解体した際の材料を使用して建立したと伝えられ、それが事実とすれば、現本堂と同時期（1795）であると考えてよいだろう。また、修理に伴う解体・痕跡調査で、現存する本玄関のほか、かつては脇玄関があったことが判明し、今回の修理で復原することとなった。このように、玄関を2か所設ける例は城郭建築ではみられるが、寺院においては極めて稀であるとされている。

式台の南側に並んで建つのは「大広間」である。勝興寺に現存する最古の建物で、元禄5年（1692）の建立である。多くの人が集まって儀式や会合を行う「広間」と、来客を迎える「対面所」からなる。対面所には、地方の真宗寺院としては他に類例の無い「上段の間」が設けられており、往時の寺格の高さがうかがえる。また、修理前は玄関が設けられていたが、明治期以降の増築であるため玄関のない姿に復原した。

式台の西側に位置するのは「台所」で、勝興寺の伽藍では最も新しい文久3年（1863）の建立である。内部は広い土間と板の間に構成され、土間には石組の大カマド、板の間には深井戸と囲炉裏を備える。特に井戸は水を扱うことから、床上に設けられる例としては珍しい。屋根は改変され急勾配の瓦葺であったが、当初は緩勾配の板葺・石置屋根であったことが判明したため、板葺の上にガルバリウム鋼板の養生を施した形式に復原した。



大広間・上段の間

正確な建築年代は不明であるが、大広間に次いで年代の古い建物と考えられるのが「書院」である。修理前は壁と襖に松が描

かれていたため「松之間」と呼ばれていたが、調査の結果、当初は床の間も長押もない簡素な空間であったことが判明し、そのとおり復原した。寺で働く僧侶の事務所として使われていたと推定される。

書院からL字に折れて本坊の一番奥に位置するのは「奥書院」と「御内仏」である。これらは書院と同時に建立された。奥書院は壁と襖に金箔を貼るので、通称「金之間」と呼ばれている。住職がプライベートな客を迎える御殿と考えられていたが、解体調査の過程で屋根裏の部材から「御居間」と記された墨書が発見されたことから、住職の自宅としての性格が強い空間と推定される。御内仏は、住職が礼拝するための阿弥陀如来像を安置する建物で、建物全体が一般家庭の仏壇のような性格の空間である。

書院をはじめ奥書院、御内仏は、様々な意匠・技術を凝らした襖の引手金具や長押の釘隠などの鍔金具で華麗に装飾されており、見所の一つである。

本坊に属する建物ではないが、本堂と本坊を結ぶ西廊下の中間点にあるのが文化7年（1810）建立の「御霊屋」である。

「おたまや」あるいは「みたまや」ともいうが、勝興寺の場合は「ごりょうや」と呼称している。内陣仏壇の阿弥陀如来立像の手前に、加賀前田家11代当主治脩と次代当主^{なりなが}齊広の大形位牌を安置する建物である。

なお、奥書院、御内仏及び御霊屋は、普段は非公開としているが、寺の重要な行事などの際には公開することを検討している。

土塁や空堀に囲まれた境内には、公開の始まった本坊の他に、それぞれ様式の異なる3つの門、そして本堂、経堂、鼓堂及び宝蔵などの「堂舎群」の建造物がある。このように、勝興寺伽藍は、江戸時代そして非日常を体感できる貴重な歴史文化資産である。2021年3月の完工が待たれるところ

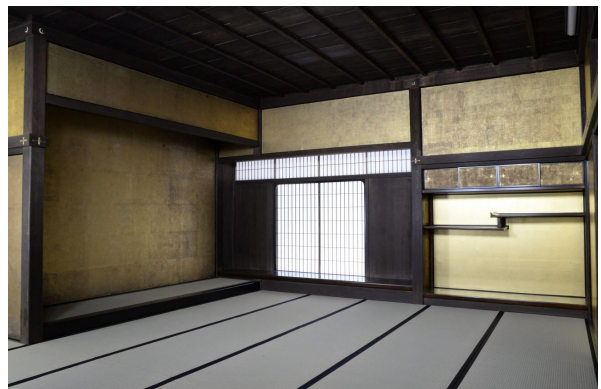
ではあるが、現段階でぜひ多くの皆さんに拝観いただき、そしてまたリピーターとして境内地が日々美しく蘇る様を見守っていただきたいと思います。

最後に、重要文化財勝興寺「平成の大修理」は、国、富山県、高岡市をはじめ市民や企業、高岡教区の浄土真宗本願寺派寺院の皆様、とりわけ伏木と古府の住民の皆様のご支援、ご協力をいただきながらここまで何とか進めてきた。皆様には引き続き完工までのご支援、そして完工後は勝興寺への日常的なご参拝をお願いして筆を置きたい。



奥書院

てんじょうなげし うちのりなげし
天井長押（上）と 内法長押（下）の釘隠



奥書院

ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

平成 28 年度に刊行された図書や、雑誌・新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。(配列はおおむね富山県郷土資料分類表に準じ、論題名・執筆者名(敬称略)・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。)

- 名君前田利常 鼻毛で守った加賀百万石 (野村昭子著 北國新聞社刊 28 年 4 月)
トナミ運輸の岩窟王 山口義正著 (内部告発の時代 平凡社刊 28 年 5 月)
一般財団法人伏木錬成館五十年史 道ひとすじ (伏木錬成館〔編〕刊 28 年 6 月)
作家 堀田善衛(特集 家族だけが知る郷土作家の素顔) 堀田百合子著 (北國文華 68 号 28 年 6 月)
加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心ー (日本遺産 時をつなぐ歴史旅 東京法令出版刊 28 年 6 月)
長い滑り台が人気!新幹線も!おとぎの森公園(富山の風景) (グッドラックとやま 463 号 28 年 6 月)
県史跡 高岡城 中井仁著 (ハンドブック日本の城 山川出版社刊 28 年 6 月)
とやま偉人列伝 藤井能三 (富山県人 1233 号 28 年 7 月)
チャレンジ 株式会社大越仏壇 小谷元洋著 (北陸経済研究 444 号 28 年 7 月)
越中への転任 田中英道著 (天平に華咲く「古典文化」ミネルヴァ書房刊 28 年 7 月)
伝承を訪ねて 第 63 回 大寺を捨てた僧の伝説ー雲山愚白ー 樽谷雅好著 (VITA 106 号 28 年 9 月)
リオ五輪 富山から金メダル、田知本、登坂 (富山県人 1235 号 28 年 9 月)
とやま人物一代記 下 (富山県人社刊 28 年 9 月)
二上山となかよくなるガイドブック 274 (「万葉のふるさと二上山」改訂版作成検討委員会 高岡市都市創造部花と緑の課刊 28 年 10 月)
「木舟城と石黒氏」資料 (高岡市福岡歴史民俗資料館〔編〕・刊 28 年 10 月)
前田利長・利家(利勝)・利政 黒田基樹著 (羽柴を名乗った人々 KADOKAWA 刊 28 年 11 月)
谷間に光を 木間章追悼集 (木間章追悼集編集委員会編 木間章を偲ぶ会刊 28 年 11 月)
伝承を訪ねて 第 64 回 前田家墓所を、西へ旅する 樽谷雅好著 (VITA 107 号 28 年 12 月)
瑞龍寺の法堂天井画(特集富山湾) 原口志津子著 (ビオストーリー Vol. 26 28 年 12 月)
古城の杜 続々 (太田久夫著・刊 28 年 12 月)
川(水辺)のすこやかさ調べ 川(水辺)へ行ってみよう! 高岡市立石堤小学校・中田小学校・川原小学校編 (環の会編・刊 29 年 2 月)
未来 閉校に寄せて 2017 年 3 月 (閉校記念誌編集委員会編 高岡市立看護専門学校刊 29 年 2 月)
高岡市史料集 第 28 集 (高岡市立中央図書館編刊 29 年 3 月)
技磨きまち輝く 高岡クラフトコンペ 30 年 (上)飛躍のステージ (中)産業振興 (下)学生 (北日本新聞 28 年 6 月 17 日~6 月 19 日)
絵莉の金 (上)「あきらめるな」逆転劇 (下)父と二人三脚「一番に」 (読売新聞 28 年 8 月 20 日~8 月 21 日)
とやま文学街道(平米、川原/山町筋/定塚) (富山新聞 ~28 年 12 月 29 日)
スクリーンの向こうに〈3〉〈6〉 映画監督 那雲哉治(高岡出身) (北日本新聞 28 年 10 月 28 日、29 年 1 月 27 日)

『郷土の文化』第 42 輯(平成 29 年刊)及び、富山県立図書館 ホームページ『とやまの本』

より平成 29 年 3 月までを抜粋

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (中田図書館) ……

昨今はスマートフォンの普及で、手軽に情報を入手できるようになりました。図書館のレファレンスサービスは、スマートフォンの利便性には及びません。レファレンスサービスの強みは、地元に着した郷土の疑問、質問にお応えできることだと思います。

今回はそんな郷土に関するレファレンスを中心に紹介します。

レファレンスの例

Q：あしつきは食べることができるけど聞いたが、どのようにして食べるのか、またどんな味なのか知りたい。

A：『中田町誌』『葦附誌』『古代越中の万葉料理』などを調べる。『葦附誌』によると、酢や味噌で和えて食べたり、味噌汁やすまし汁など吸物の具材として使われることが多いようである。また、塩や砂糖などの調味料に漬け保存食として利用される記述がある。味については、「味淡泊にして香気あり」、「味とって特別にないがかすかな川藻のかをりがなつかしい」、「無味にして藍藻類特有の臭気はするがすこぶる微弱」と記述がある。また「酢に入れば酢の味、みそに入ればみその味といったぐあいに、たちまちその調味料に同化する」という記述がある。

『古代越中の万葉料理』では、調理、盛付けしたあしつきを見ることができる。

Q：中田かかし祭りがいつから始められたのか知りたい。また、中田かかし祭りの歴史が分かる資料を探している。

A：『かかし祭 0 からの歩み』^{かかし}『案山子 中田かかし祭 20 年の歩み』『未来を見つめて 高岡市・中田町合併 50 周年記念誌』を調べる。これらの資料から、昭和 58 年（1983 年）に第 1 回中田かかし祭りが開催されたことを伝えた。中田^{かかし}祭りの歴史が分かる資料については、『案山子 中田かかし祭 20 年の歩み』を提供した。この資料は、第 1 回から第 20 回 {平成 15 年（2003 年）} までの中田かかし祭りの様子や作品の一部を写真で見ることができる。また、写真は無いが、各回コンクール入賞作品の一覧が掲載されている。

Q：サッカーという言葉はフットボールが語源であると聞いたが、それが分かる資料を見たい。

A：フットボールの定義を調べる。『旺文社百科事典エポカ』では、「中世紀イギリスで行われていたフットボールから派生した、足でボールをける球技の総称。アソシエーション・フットボール (association football <サッカー>)、ラグビー・フットボール (rugby football)、アメリカン・フットボール (american football)、タッチ・フットボール (touch football)、オーストラリアン・フットボール (australian football) がある。」と記述されている。アソシエーション・フットボールはサッカーのことを指す記述があるが、アソシエーション・フットボールはあまり馴染みのない言葉である。今度は、サッカーを調べる。同じく『旺文社百科事典エポカ』では、「正式名称はアソシエーション・フットボールで、略してア式蹴球ともいう。」と記述されている。サッカーの正式名称が、アソシエーション・フットボールであることが分かった。

次に、サッカーの言葉の成り立ちを調べる。『最新 スポーツ大辞典』では、「サッカー (soccer) は、soc (association の短縮形) + (c)er」、「蹴球。アソシエーション・フットボールの俗称。」と記述されている。サッカー (soccer) という言葉が、フットボール {正式名称はアソシエーション・フットボール (association football)} が語源となっていることを確認した。

(櫻井 佑歩 記)

「高岡の図書館」 高岡ミニ人物史 一覧 その②

創刊号発行より 102 号まで紹介した 98 人の郷土の先覚の方々を改めて振り返る。

(敬称略)

人 名	号 数	れんざい	生没年(西暦)	業 績 な ど
学者・文人など (その1)				
大伴 家持	39号	38	718～785	歌人。越中国守。万葉集編纂にも尽力。
尾崎 康工	17号	16	1702～1779	明和期の代表的俳人。優れた俳諧評書を残す。
寺崎 蛸洲	49号	47	1761～1822	越中の舞句『狐の茶袋』を編集。文壇の主宰者として活躍した。
五十嵐 篤好	78号	74	1793～1861	十村として農政に励む一方、国学に長じた行政官
神子高 たか	29号	28	1817～1886	女寺子屋の創始者。高岡女子教育の先駆者となる。
河合 平三	99号	95	1830～1878	私塾「混放洞」を開いた漢学者。中田近くの小学校創設に尽力。
関 守一	98号	94	1830～1882	神道の振興、地方行政にも寄与。関野神社神職。二上射水神社を遷座
寺野 守水老	44号	42	1836～1907	高岡近代俳句の巨匠。日本派俳句会「越友会」創立
宮崎 久	64号	61	1847～1910	小学校長として奉職。災害とも戦い、高岡の教育に尽くした。
吉田 琴堂	68号	65	1852～1889	戸出出身の漢学者。地方教育の普及、殖産興業に尽力、戸長も務める。
大橋 十右衛門	創刊号	1	1859～1940	町年寄の家柄、私塾「越中義塾」を創立。越中改進黨（民権運動）
篠島 久太郎	45号	43	1861～1926	私立高岡図書館を創立（現市立中央図書館）。教育界の組織づくりに尽力
野村 範家	32号	31	1862～1934	小学校教育の向上と校風改革に尽力。45 年間の教職生活。
筏井 竹の門	2 号	2	1871～1925	俳人。「越友会」を起こす。俳画もよくした。近代高岡の代表的文化人
井上 江花	14号	13	1871～1927	新聞記者。郷土が生んだ名ジャーナリストで「高岡新報」史上の功労者
三島 霜川	20号	19	1876～1934	中田の出身。郷土が生んだロマン主義作家
山口 花笠	5 号	5	1878～1944	俳人。「越友会」を起こす。晩年まで地方俳壇の長老として活躍
御旅屋 太作	60号	58	1881～1942	篤学の人。富山県其自然保護とその学術研究。「あしつき」研究
大井 冷光	71号	68	1885～1921	一生を童話にささげた児童文学者。編集・出版、作品を発表。
堀田 くに	27号	26	1888～1985	廻船問屋の娘、県内初の託児所をつくる。県内保育事業の先駆者
澤田 はぎ女	84号	80	1890～1982	「幻の女流俳人」、近代女性俳人の一頁を飾り、彗星のように消える。
広瀬 喜太郎	13号	12	1892～1993	第7代高岡市立中央図書館長。教育界に尽くす。「暁堂文庫」寄贈
倉田 一郎	16号	15	1906～1947	民俗学の先賢。柳田国男の「木曜会」に参加。
岩倉 規夫	65号	62	1913～1989	国立公文書館の基礎を築いた初代館長。長く国の役人を務めた。
金田 恒二	86号	82	1917～2002	子どもたちに本を。私立図書館、眉丈文庫3代目。図書費寄贈など
堀田 善衛	70号	67	1918～1998	芥川賞作家。廻船問屋の生れ。国際派として活躍。高岡市名誉市民
学者・文人など (その2 医師、住職)				
慈雲妙意(清泉禪師)	38号	37	1274～1345	国泰寺の開祖。
山本 中郎	56号	54	1742～1813	高德の名医。町役人の出、京都の名医、永代の帯刀を許される。
闌 郁	55号	53	1759～1831	勝興寺 19 代住職。元本堂再建造営。本願寺 17 代（法如）の第 10 子
佐渡 養順	47号	45	1820～1878(9代)	高岡の町医者で、最も由緒の古い産婦人科医。蒼龍館文庫（金沢市）
坪井 信良	25号	24	1823～1904	蘭学者。9代佐渡養順次男、將軍家の奥医師。医学研究と蘭学普及
長谷川 徳之	69号	66	1856～1930	伏木に県下初の私立病院創立。地域の保健・医療に貢献。
飛見 丈繁(二代)	59号	57	1888～1968	医学のほか、政治あるいは郷土の文化や教育の発展に尽力。県議長
岡野 他家夫	61号	59	1901～1989	文学博士。近代出版史の先駆者。昭和初期に東京大学図書館司書。
稲葉 心田	101号	97	1906～1986	臨済宗国泰寺派第 62 世管長。座禅指導、伝道教化活動展開。書画、法話
芸術・文化・スポーツなど				
岸駒	34号	33	1749～1838	日本画家で岸派の祖。門人から優れた画家を輩出。宮中の絵所に仕える。
堀川 敬周	83号	79	1789頃～1858	高岡初の町絵師。初期高岡日本画壇の礎を築く。
九紋龍と階ヶ嶽	33号	32	年代不詳 1817～1868	江戸後期、戸出出身の大関。久留米藩（九紋龍）・八戸藩（階ヶ嶽）召抱え力士
武蔵川 大次郎	6 号	6	1830～1881	姫路藩のお抱え力士。帰郷後、明治元年に戊辰戦争に従軍。
本保 義太郎	36号	35	1875～1907	近代彫刻の先駆者。サロン・デ・ボザール初入選。渡仏し活躍後、客死。
在田 宗貫	92号	88	1885～1973	侘び茶人。茶道の研鑽・修道。「淡交会高岡支部」の礎をつくる。
室崎 琴月	3 号	3	1891～1977	童謡「夕日」の作曲家。県内の小・中・高校の校歌なども多数作曲
内島 北朗	53号	51	1893～1978	陶芸と俳句の道に生きた。俳句「層雲派」文筆家、画家
村井 盈人	88号	84	1899～1976	高岡近代洋画の先覚。「北国洋画協会」。高岡市美術作家連盟を創設。
三村 石邦	72号	69	1903～1997	日本画家。院展、京都・大阪で会館・講堂などの壁画制作にあたる。
櫻井 鴻有	96号	92	1906～1960	日本画家。帝展・日展、富山県日本画壇の育ての親。県連盟委員長
南 桂子	89号	85	1911～2004	国際的な銅版画家。パリ～サンフランシスコに移住。
藤平 正夫	97号	93	1924～2003	ヒマラヤ・チョゴリザ初登頂。(社)日本山岳会会長。登山家育成。
その他				
一銭剃 喜右衛門	15号	14	生年不詳～1668	ころびキリシタン喜右衛門一族
孝子 六兵衛	76号	72	生年不詳～1789	親孝行の鑑と賞賛される。「孝子祭」後世に語り継がれる孝養

参考資料：『立山を仰いで一ふるさとの先賢』富山県教育記念館発行 ほか

明 治 の 伏 木

今年、明治元年（1868）から満 150 年の年に当たる。伏木に明治のころ、明治天皇（明治 11 年）大隈重信（同）、伊藤博文（明治 32 年）が、訪れている。

【庄川と合流していた小矢部川】

昔、小矢部川と庄川は合流して一つの川となっていた。河口が現在のように分けられたのは、明治に入ってからになる。「庄川第一期改修工事（庄川小矢部川の分離開削工事）」が、明治 33 年（1900）から大正元年（1912）にかけて行われ、両川が分離した。これにより、庄川の逆流による被害はなくなった。



庄川小矢部川の分離開削工事（明治 33 年）
— 『国土交通省ホームページ』より —

【寺畑橋】

明治 15 年（1882）矢田村の肝煎 寺畑善五郎が、石川県庁に願い出た中伏木・新島間（340m）の架橋賃取が、14 年間許可される。翌 16 年に竣工した。これまで橋は無かったので、町民は深く感謝し、寺畑橋と呼んだ。明治 23 年に勝興寺大法要が 6 日間施行され、毎日 20 円以上の収入があった。だが、洪水ごとに損傷して、1 回 1 銭の橋賃は維持費に足りなかった。許可期限満了後の明治 31 年に、富山県が新しい橋



寺畑橋 — 『中越商工便覧』より —

を竣工した。伏木橋と命名。その後、昭和 17 年（1942）洪水で一部流失。橋は撤去され、同地点で兩岸を結ぶ渡船が設けられた。

【長谷川病院】—明治14年 5 月 長谷川徳之 創立—

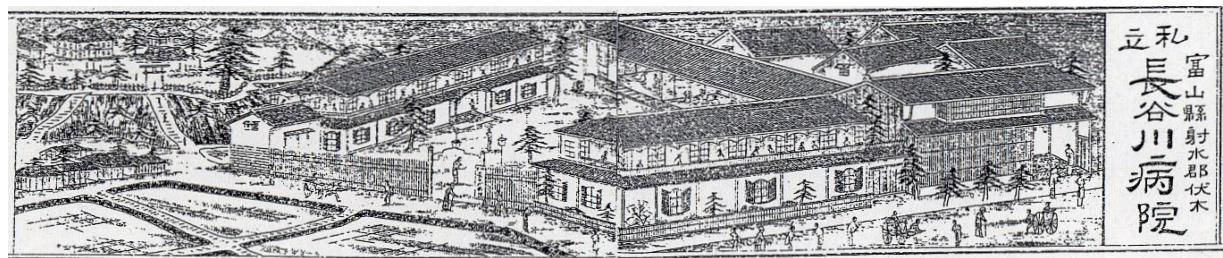
富山県初の私立病院「長谷川病院」が、伏木東一宮 298 番地に設立された。当初は、40 坪余の規模で内外科の診療をしていた。拡張を重ね、明治 41 年 4 月には、内科診療室・手術室・附属研究室・外科婦人科手術室・浴室及び 30 余の病室からなる個人経営としては県下唯一の病院となった。福光町（明治 17 年）守山町（同 18 年）源平板屋町に撥雲病院（同 20 年）氷見町（同 25 年）に分院を設立。昭和 7 年（1932）に、広大な一宮の病院を引き払い、古国府 7-32 で規模を縮小して開業する。同 12 年（1937）廃業。

今はない伏木の景色。明治からの歩みが今につながる。これから 150 年後、伏木はどのようになっているのだろう。

<参考資料>

『小矢部川』『高岡市史（下巻）』『伏木郷土史年譜』『新湊市史』『射水郡誌』『中越商工便覧』『長谷川徳之と武内弥八郎』

（横 効子 記）



— 『中越商工便覧』より —

お知らせ

行事予定 (変更になる場合があります)

中央図書館

えほんのじかん 毎週月～金曜日
(祝日、第4月曜日を除く)
午前11時～15分程度

えほんの広場 毎週土、日曜日、祝日
午前11時～30分程度

土曜おはなし会 午後2時～2時30分
第1土曜日 高岡おはなしの会
第2土曜日 図書館ボランティア
第3土曜日 高岡第一学園
幼稚園教諭・保育士養成所
第4土曜日 人形劇団どんぐりコロコロ

高岡婦人読書会 毎月第3水曜日
午後2時～

「古文書を学ぶ会」 10月6日(土)
午前10時～11時30分
(受講受付締切ました)

伏木図書館

こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～

古典の会 毎月第2日曜日
午前10時～

読書会 毎月第3土曜日
(8月なし) 午後1時30分～

戸出図書館

こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～

中田図書館

子ども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～

福岡図書館

おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～

・古文書で学ぶ高岡の歴史

高岡市史料集解説講座 高岡市史料集第29集より

「高岡町御会所とその役割」

9月8日(土)

午前10時～11時30分

高岡市生涯学習センター 5階研修室501にて
講師の山崎明代さん(『高岡市史料集』解説講師)
に古文書の解説をしていただきます。
資料代100円(募集は9月1日(土)～)

福岡図書館に、視聴覚資料の寄贈がありました。DVDは貸出を開始しており、録音図書(CD)は、11月1日からの貸出を予定しています。市内図書館の窓口で予約可能です。

ご利用お待ちしております。

※ 中央図書館は毎月第4月曜日のみ休館します。(年末年始 12月29日～1月3日 休館)

伏木・戸出・中田・福岡図書館利用案内

9月							10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			①	②	3	4	5	6					1	2	③						1
2	③	④	5	6	7	8	7	⑧	⑨	⑩	11	12	13	4	⑤	⑥	7	8	9	10	2	③	④	5	6	7	8
9	⑩	⑪	12	13	14	15	14	⑫	⑬	⑭	15	16	17	11	⑫	⑬	14	15	16	17	9	⑩	⑪	12	13	14	15
⑯	⑰	⑱	⑲	20	21	22	⑳	22	㉓	24	25	26	27	⑮	⑯	㉓	21	22	㉓	24	⑯	⑰	⑱	⑲	20	21	22
㉓	㉔	㉕	㉖	27	28	29	28	㉙	㉚	㉛	31			25	㉖	㉗	28	29	30		㉓	㉔	㉕	㉖	27	28	㉙
30																					㉚	㉛					

○印は伏木・戸出・中田図書館の休館日

□印は福岡図書館の休館日

高岡市立中央図書館 〒933-0023 末広町1-7
高岡市立伏木図書館 〒933-0104 伏木湊町13-1
高岡市立戸出図書館 〒939-1104 戸出町3-19-29
高岡市立中田図書館 〒939-1272 下麻生1108
高岡市立福岡図書館 〒939-0132 福岡町大滝44

TEL (0766) 20-1818 FAX (0766) 20-1819
TEL (0766) 44-0073 FAX (0766) 44-0073
TEL (0766) 63-1254 FAX (0766) 63-1254
TEL (0766) 36-0054 FAX (0766) 36-0054
TEL (0766) 64-1034 FAX (0766) 64-1038